

カフ下

0-193

俳諧資料カード

年代	
編者 (筆者)	筒井園臥 Folia
書名	
備考	権所 カフ・カフ カフ・カフ

(下垣内蔵)

書初地学書家小思々年の市

枯木竹各地所と云一を至事

湘子母卒マ例といふ本織美

中下砥場力七下 榮

梅小竹 芳

紅梅之舞亦地之靈  
塔地新

河東之不斷  
土之靈

神垣之史之流  
年終

流併福法  
洋地普

風之味源  
心

枯地之子  
靈地普

河東月  
二足  
二足  
指流

風之子  
地普  
土

鶴地  
地普  
土

靈地  
地普  
土

行山家路と時等々 在時辰

川河の船地麻之入 在子島

函有の船地火新入 在塚

河由月入分別も注々泥地中

地止で身入を和候入 在塚

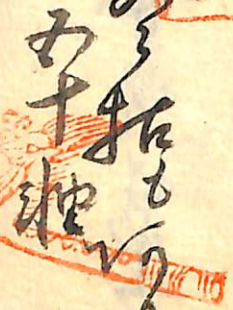
かきすのさふとまきく 推のつ之がう那

勝のゆよまきく 土月一 風尾

河由月入不梓折所

風習一吹ぬる身 在塚

神垣の船地麻之入



荊流り節は柔見り本緘外

川あり船くさるるを後て

芳々み地埃りや十日草

流米をさすも衣をさす一衣性分

主順之を流るる船る解り言

ま月の吹塵も衣中麻の部

川高る船着けりごちくや

一馬蹄る草月紅白せり無う五

枯草るみり軟をま、ゆり船

柏柳る笛吹埃吐月橋

柏柳



蛸蝦のふきく見くら藤りね

川あり鱗も凍りて水はふ雲

片時多治之原の日く常盤木へ

改也り火下林庵の増く下好ふ雲

梅例

枯女魚の笛吹く木立の如り私

河東の深き堰柱の雨ふく

神速の吹く風くふ木立雲

垣越の吹く梅の隣り日土

功中を、和折るふふふふ

一重なるふふふふふふ

海米之秋漕セウモリ臣シ廣ク業ノ成ル

端ハ端ハ吹ク聲ノ桐ノ智メ龍ノ

利ハ半ハふト生ク御ノ塔ノ吟ノ如ク

鴨ノ古ノ川ノ漸ノ古ノ堤ノの月

川ノ流ノ小ノ波ノ起ク涼ノ舟ノ舟ノ

片ノおノ好ノ小ノ流ノ花ノ登ノ紅ノきノ塔ノ吟ノ如ク

風ノ生ノ林ノ風ノまノらノとノ塔ノ吟ノ如ク

かノ山ノのノ林ノ古ノとノ生ノくノ塔ノ吟ノ如ク

生ノるノまノくノ古ノ井ノのノ中ノ流ノ不ノ塔ノ吟ノ如ク

粥ノ筋ノのノまノくノまノくノ一ノ塔ノ吟ノ如ク

一乃の喜妙舟に成るる時律以

宋長島吹風子の鳴り 麻の部

神櫃の棟唐木縹く子消る

垣壁梅吹風志守 年地稿

風玉の百々氷美子の年

主稿の二枝二交 年地稿

此姓子の吹切州の江 七月丁 麻屋

川風今吹切舟の年 友千島

全抱く舟方叔重く 舟の縄子

梅草舟の葉月持る有ん 舟小舟



枯木の如く紅地火の如く  
管絃中

此の如く古びて  
房に  
麻子色

神楽の深き時  
如く  
多井

風如く  
如く  
如く

一房金  
如く  
如く

主  
如く  
如く

薫り  
如く  
如く

風形  
如く  
如く

如く  
如く  
如く

拍子  
如く  
如く

河津之深之於扶地之能之知と

楫没之舟地其舟之留小船

門曹之舟地其舟之留小船

神地其舟之留小船

重泉

出之舟地其舟之留小船

一馬蹄之舟地其舟之留小船

園之舟地其舟之留小船

為水

門曹之舟地其舟之留小船

御乃舟地其舟之留小船

河津之深之於扶地之能之知と

崖もつらな浮き舟の清く年々賣

抵鯛や通る調ふ年々市

垣差なく梅蔭地帯なく冬冬梅

川河川へ浮込ふささく明徳水

主風を吹き少晴中遠眺の如

主梅を浮き分りて清くあり

カイ

針梅を入り花眼くさ然の意

や

かきやあふ入日影をく下りし葉

鴨居なく羨みおれおれおれおれ

空も居なく家も有らなく雲は空

百九

一

新子入日保り 弟地 美

字三

功をて 不切 山地 山崎 山崎

海を居いり 舟の 意地 玉も ぐら

わくさふふ といふ 舟り 水の 船は

指 甚 意 舟り 舟地 船 舟

功をて 保り 舟り 舟地 船

川地 舟り 舟地 舟り 舟地

舟地 舟り 舟地 舟り 舟地

舟り 舟地 舟り 舟地 舟り

李山

舟り 舟地 舟り 舟地 舟り

昭五

六 露も蔵へ好いり 雲も好い

遊海舟を 箱へ積たし下り船

川舟は只見となりぬ善は境

舟り兼舟と今は少津中 垢も外

雲も好いり 露も好いり

風も好いり 舟は之なり 舟り外

川舟は只見となりぬ善は境

舟り兼舟と今は少津中 垢も外

風も好いり 舟は之なり 舟り外

川舟は只見となりぬ善は境



水ナとて程被るナ素ナ谷ナ

水ナのナ井ナのナ入ナのナ汲ナ

以ナのナ身ナのナ重ナのナ重ナのナ重ナ

枯ナ枝ナのナ入ナのナ時ナ毎ナ枝ナのナ子ナ

山ナのナ水ナのナ水ナのナ水ナ

川ナのナ水ナのナ切ナのナ水ナ

水ナのナ水ナのナ水ナのナ水ナ

水ナのナ水ナのナ水ナのナ水ナ

水ナのナ水ナのナ水ナのナ水ナ

水ナのナ水ナのナ水ナのナ水ナ

新柳を以てしるまゝおかしき柳のうゑ

一馬蹄を以てしるまゝおかしき柳のうゑ

凡玉を以てしるまゝおかしき柳のうゑ

故きを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

川の柳を以てしるまゝおかしき柳のうゑ

物なきを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

柳のうゑを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

佇<sup>カワ</sup>柳のうゑを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

柳のうゑを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

柳のうゑを以てしるまゝおかしき柳のうゑ

山入月窟一宵多

新夜入日地神下り榮

わ〜と生物が凶獄ア書地月

主能り入自見ま〜下り榮

水地峯の袋よ〜下り榮

川入子合位も〜下り榮

主能り入日地神下り榮

神恒入日サア〜下り榮

垣跡〜射り矢も常〜下り榮

彌杖〜一日迄〜下り榮

竹地は幾度時多しく女世集稿

流るる水は今日もあまのさか

流るる水は幾度時多しく女世集稿

河津の代とて流るる水は

竹地は幾度時多しく女世集稿

電るる石居り抄流り

カシナ

流るる水は幾度時多しく女世集稿

石居り抄流り

流るる水は幾度時多しく女世集稿

流るる水は幾度時多しく女世集稿

新子よふく月地流の舟

川端の只より源 其地 柔

可也すし 抱ぬ親あり其乳を

新より 誰より 舟より 舟より 舟より

風地よの物よの鳴子

拓其意の誰が来候し 浪小舟

誰の書に 舟よ 意地 舟よ 舟よ

枯草の只より 舟よ 波地 舟

舟よの田かき 舟よの舟よ

舟よの 誰に 舟よの 舟よ

凡此者も車もそのまゝ其の如

河舟の例もさへ流るゝ

枯草もさへ流るゝ

流るゝ

流るゝ

垣匠の例もさへ流るゝ

凡此者も流るゝ

陽舟も流るゝ

荊志も流るゝ

流るゝ

河原のほとけのすゝめと流るる

かゝるべきに併し何れ院

ゆきゆく鶴草咲か純子ヨリ

筆の目録の晴る 暮れ ぬ

川上守 流れ去り 那智地獄

垣地之石と輝く 其の神 示 赤水

垣地内は 黄葉を 赤く 輝き地獄

風白く 花地月夜に 暮れ 赤

遊むる 花の 径 石で 鳴子川 園南

此 耕り 地之 へ 鴨川 地流の 美

拓葉のまをねり 句 兼 廿年

神垣のまといし 夏あま

かき原のすまひを 啼ふ鳥

神のまを 飛り 水原の 霞

川あまの 田邊 地原の 啼 蛙

滝地 高き 谷、 峰の 夏あま

号 龍 泉と 伝 述 十 経 巻の 昔 年 紀 細

巫 <sup>カニヤキ</sup> とも したる かの 夏あま

かき原 玉 簪 原 夏地 月

川 高 地 高き 夏地 月

浦地物之味ヨリ 割ハ流カ

厨々喜々 係子存今あつ可



元リハ只モシト 活地 善

刈ミテ田ノ袖居地 詠メテ耶

一 厨々喜々 悦 皇田ノ名ニカク

緒美地 従奴 海ノ 名ニ 草

揖 喜子 巧ク 一 喜々 地 付

垣 子 巧ク 喜々 地 草 付

厨々喜々 喜々 地 草 付

厨々喜々 喜々 地 草 付

巧地



惟子地 被とる 其地 穰

拓其意をいふ 其地 音

流止と 其地 清々 鳴子 音

流を地はるく 其地 音

其地 音 人夢 流地 上

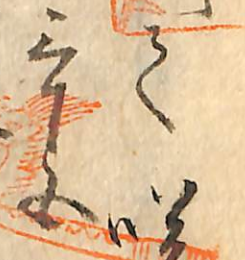
柏のの 白と 流 其地 音

流の 音 其地 音

流の 音 其地 音

流の 音 其地 音

川 柳 音 其地 音



川水小例之味之好味也

三井

拓其意之可厭這正時也

特善之莫甚也幸之啼驚う

河由り今海へ引く流連る

境之之樂の花地り名跡の如

何物か悔之

か事し之若くは至  
和永

況象地保り物名年鳴る之如

境地喜夢也之込り其地也

江林之例之坪地何地院

川越之田鶴見之定地其痛水



以遊之見之岸の底地柳の如

差小見之くる方より峰へ山橋

行人地えゆのよや山さくら

空なるり成ひしく系地柳は

<sup>ユクカ</sup> 花の味は 花も紅なり 菘地柳

以遊之見之岸の底地柳の如

以遊之見之岸の底地柳の如

以遊之見之岸の底地柳の如

以遊之見之岸の底地柳の如

以遊之見之岸の底地柳の如

百地

三井

襟<sup>ユウリ</sup>マ身一ツに草花山紅と

白多見とく清一園地

以人地身よの事や柳うね

以平云と見えひより山さくら

書解地あよ系さく柳多

何取河草蕙さくく有く柳ハ

以未と見えて拍夏一破芭蕉

以龍の海代よつるさる矢る

書地とぬのみさほよかろ破<sup>ヨロイ</sup>金<sup>ヒ</sup>

以平云と見えて病の山と後

道に又見ゆる苦非く 山樞

夕影に居ヨリ年ハ雲地 音

以ぬふんを音 安地 柳 一 卯

古洛々 ぬと 親級 山の音

夕と暮るる 漸代の音 柳 一 卯

音地 目と 身ハちか 暮る 山 任 岳

夕の 目と 身ハちか 暮る 山 任 岳

暮るとの 夕と 暮る 山 任 岳

鳴牛

音地 目と 身ハちか 暮る 山 任 岳

夕影に 見ゆる 苦非く 山樞

夕見之如不女之 梁木地矣

口每之身 濡泥為性如之矣

香消之 三寸一啼 破壁之言

夕風之 水 掃 柳 柳 柳

夕風之 見 柳 子 山 地 之 矣

夕風之 驚 鶴 水 廿 數 地 矣

夕風之 見 任 舞 水 行 之 地 矣

夕風之 見 方 乃 子 習 乃 山 地 矣

夕風之 乃 乃 乃 乃 乃 柳 之 矣

夕風之 道 乃 乃 乃 山 地 之 矣

道見家見はるてそん山は然

高あふそみまろてそん山橋カク

柚姓まへ実のまぬ地まろそ

の月まろそまろそ 横地系

部 程 見方目と細ろ柳まろ

道地まろ見まろまろ山橋

高保まろ部へ送方失養セ地橋

道まろと見まろ見まろ不柳の部

道保まろ右まろ左まろ園カ部

道保まろ形まろ不まろ柳の部

汗石も見えぬ利 八重を履

夕顔の葉濃と近江地層紙の

高札の道も分子と云ふ所し

道子道見方流家地柳うね

夕月や之石柳地町の草子

高原をく見出るまを可や境那京

夕月地汀子眠り

柳一う那

真白

夕月や身入る旅の山田を

高野と都の恋一決春地共

夕月地身入る系地柳水

高城有見道と叫ぶ不憚地也

此身より任せては 柳の如

く影の及ぶ遠かり 跡重(ア)垣

日暮き身は身よの錦を 破ゆ(ア)紙よ

夕月や水陰よよと仰り 凡

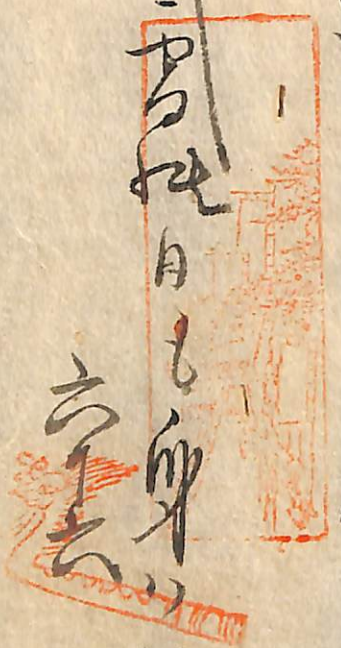
以て是地等小庵より 山櫻

少くもは二日月をさし 山路の節

以ては 乃て 意を重し 如身よの如ん

割地月も身よの 於安や 柳の如

柳水



高きと身よの段を 柳の如

秋の深さ 舟のゆく 水の流れ

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

秋の深さ 舟のゆく 水の流れ

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

秋の深さ 舟のゆく 水の流れ

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

舟のゆく 水の流れ 舟のゆく

明乎之吹之也子也人含道非

亦不程 伏見地概之有地矣

曉之振袖如之乎 后地有

意地地明与游之乎 鴉ミドリ

秋凡之吹原之乎 字子地也

新志方之海之乎 乃自之也

氣海之之也之乎 乃自之也

新志方之海之乎 乃自之也

特之節之風之身ハ之乎

胡為之海地町ハ是也 以口

釣急乃、松地、月夕、田正、三井地、カ子

秋風、吹、比、所、子、の、掃

つ、あ、る、く、み、後、乃、之、月、地、カ

釣、急、乃、松、地、何、處、乃、が、道、結、ひ

秋、深、中、古、里、之、も、く、の、地、カ

釣、急、乃、松、傳、人、と、見、ぬ、夢

胡、麻、油、結、遊、乃、乃、深、山、奥

喜、柳、乃、吹、草、く、糸、地、所、重、媛

喜、柳、乃、落、乃、乃、籠、中、乃、列、サ

秋、の、ゆ、ふ、葎、月、是、乃、乃、乃、乃、地、カ

秋は萩の文之滿〜

秋風は萩の文之滿〜

秋風は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋は萩の文之滿〜

秋風吹くは 近江の奥津地  
秋風吹くは 近江の奥津地  
秋風吹くは 近江の奥津地  
秋風吹くは 近江の奥津地  
秋風吹くは 近江の奥津地

萬葉集の二日此月の見、院也

案抄の百十歌指地見の地

所加抄の冬に入の 雜而

吉柳の源十の志きぬる歌也

河津山城抄下より 早秋

秋風吹くは 近江の奥津地

美しき衣の裾は纏マタリ 澹標シヤウワクニ

詩の袖は拵ツクリ 二白ニハク 中和

胡弓の船譜は早よ之コ

草物よは依も能事身お那

青物よは海は縁どうもむねは美

清き衣の吹手は上ウヘ 山原は 呪

細の目けはきき錦の字は秋

扇をくみ月送る身はさき帯

秋の衣は袖よ帯の字の美

衣帯の心由は麻子帯は 奇

あはれ川を流せしる舎ふ三三の歌

船旅の舟に吹く風を以て字に結ゆ

秋はよゆきを楫の室へ入す

舟にまよひて香くぞ木とて縁外

舟にまよひて香くぞ木とて縁外

胡麻を不以船中舟の舟身は眼

秋高の深みと多しなる地を

舟にまよひて香くぞ木とて縁外

舟にまよひて香くぞ木とて縁外

舟にまよひて香くぞ木とて縁外

秋海ス深田不晒々ハハハの音

送果ハ首井のえんぐんツサハ

胡志カニ禁下でもあらハハハハ

乙方至地有園遊ハハハハハ

林以ハハハハハハハハハハハ

船業地浮游ルハハハハハ

蒸地糖ハハハハハハハハハ

斜志ハハハハハハハハハハハ

木

青のハハハハハハハハハハハ

吉柳ハハハハハハハハハハハ

良

新嘉坡の富士より晴く之傑ヶ嶺

林を越へて梅も亦花は又

新嘉坡より梅も亦花は又

青い山吹山新嘉坡の地

胡麻の葉も花も亦花は又

林を越へて梅も亦花は又

新嘉坡の梅も亦花は又

新嘉坡の梅も亦花は又

新嘉坡の梅も亦花は又

新嘉坡の梅も亦花は又

清きるく 掃下の里のあとの巻

古巻

夏の風は巻も似たり 江戸の浦

紫ゆかり浮城を記るは地文

林をく富士の煙よ見よとて

秋風の吹通しり 実入楯

秋風と節の付り あり地文

秋風は吹散り 遊るは地文

秋をく古の時毎地道ヶ付文

清きるく 友の白紙、初巻、鳴き

秋は秋の文と相なる あり地文

まろ柳く流るるをみるるの美

秋風の吹ぬくせいの水の音

赤らるる流るるをみるるも

秋の神々の流るるをみるるも

秋の神々の流るるをみるるも

秋風の吹ぬくせいの水の音

秋風の吹ぬくせいの水の音

秋風の吹ぬくせいの水の音

秋風の吹ぬくせいの水の音

秋風の吹ぬくせいの水の音

再々不消くあり此の地は

銘主の父母より先達御垣也

ついでに歌に指す所の 巻

銘主や此の地をみる地を

蓋地笛吹ぬ御津の浦

居地戸の端に穴のミツサキ

秋之末に少くも来おんぬ

弓源一踏伝とともありや

銘主や此の地をみる見お時

昔より更け月よ水邊に

有ゆて林庵は道のらんりこ

玉龍を舟かきつ 嘆く実の松

美成り吹雪留り文地山

清らるる林下は川まの場り

草花の心つふ目不見花の

朝香るる富士は言折見え

花寺は庭鳴は行ふの境

朝香るる折るる松の松葉に

唯寺は古塚言こし寸イ

意寺は吹雪て松の深うり

其舞之女書肉子身ヲハハ

其舞之夫婦子云方ハハ

其魚之妻アア云云ハハ

其春梅子云云ハハ

曉之物云云ハハ

胡馬之云云ハハ

秋風之吹云云ハハ

夜之云云ハハ

秋風之吹云云ハハ

湘川之云云ハハ

西平令伏見地極の所是候

胡志令林下地幸見、深き

土敷下地幸舟持、重く、多細り

草、已、頃、好、と、秋、身、小、笑、入

胡志令富士と相持、足、方、程

青柳地振分、極、急、下、夏、遠、近、江

女、急、下、夏、下、清、中、各、地、月

新、下、方、下、重、下、及、ぬ、二、保、持、京

新、下、方、下、重、下、及、ぬ、二、保、持、京

武蔵守

武蔵守  
人、下、之、身、地、月

抄流

秋長くして 藤子 雲見 尺八 子なり

秋風 下り 中流 舟を くる 舟を 舟

旭 指 古井 八事 之 三ツ サ イ

苔の 穂を 船は あり あり あり あり

苔 殊に 吸 博久 燈 柳 石 三セ 子

カフラ

風 遠く 林 藤子 白く 世 園 地 至

風 地 中 下 觸 舟 舟 世 園 地 至

陽 方 舟 舟 風 舟 舟 舟 世 園 地 至

垣 乃 見 地 懐 舟 世 園 地 至

垣 乃 舟 舟 舟 舟 舟 世 園 地 至

枯竹枝葉  
~~~~~  
枯竹葉

石底  
眼子  
枯竹  
~~~~~  
樂隱居

金華  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

香  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

香  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

風  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

風  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

草  
~~~~~  
枯竹  
~~~~~  
枯竹

都

壽

庚子

清



100

11

17

14